（様式３－２） 調査研究活動記録票（先進地視察又は現地調査に要する経費）

№1　　嬉野市議会議員　　山下　芳郎

実施月日	平成31年2月27日（水）
実施時間	１３時３０分～１７時３０分
調査先	第１５回国際水素燃料電池展(リードエグジビジョン、水素エネルギー協会)
調査所在	東京ビックサイト（東京国際展示場）
調査の目的	次世代エネルギーの中核となる水素エネルギーの可能性を研修するため
調査先担当者	TOKIエンジニアリング㈱　社長小柳悟様　、　九州経済産業局　岩崎様
内容・結果等	水素燃料電池展に２７０社の出展は海外からの出展も１７か国と含め世界最大規模と言われるように精度・内容とも世界最大規模のコンベンションであった。 出展者でもあるTOKIエンジニアリング㈱　小柳社長及び九州経済産業局岩崎様より概要説明を受け、会場を視察した。 また、セミナー会場では燃料電池自動車の実用化普及に向けた専門技術の最前線の講話を聞けた。 7年前にトヨタが水素燃料電池車の「MIRAI」を発売し、5年前にはホンダが水素燃料電池車を発売した。これからの時代の大きな要素である環境保全型の新型燃料として水素が全世界で注目である。今回、海外からの引き合いが多く、特に中国、シンガポール等東南アジアが熱心だったように感じた。自治体からも山口県、山梨県、福島県、川崎市また山梨大学などの出展もあった。課題は自動車の1km換算での燃料価格比は、水素→約6.6円、電気→1.3円、ガソリン→8.2円で水素ステーションの展開が広がるか、価格は市場が広がれば安くなっていくが、現状の推移では電気が格安である。 佐賀県で昨年「佐賀水素ステーション」が商業用として開設された。 【まとめ】化石燃料と原子力からの脱却を目指す為にも水素エネルギーの実用化と普及に向けたメーカーの取り組みをセミナーからも聞け、水素エネルギーが身近に生活に活かされるクリーンエネルギー時代が来ると確信した。 民間事業者と大学また自治体との連携が大事と感じた。その為にも「人にやさしいまちづくり」の本市は積極的に水素エネルギーの振興を進めていきたい。

上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額（円）
	旅費		33,375
	宿泊費		7,630
	合計		41,005

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

（様式３－２） 調査研究活動記録票（先進地視察又は現地調査に要する経費）

№2　　嬉野市議会議員　　山下　芳郎

実施月日	平成31年2月28日(木)		
実施時間	9時30分～13時		
調査先	ふるさと回帰センター		
調査所在	千代田区有楽町東京交通会館8階		
調査の目的	中山間地区の活性化		
調査先担当者	ふるさと回帰センター　佐賀県担当矢野理恵子様 地域活性化センター　佐賀県担当黒木啓史様 日本ファームステイ協会　事務局長大野彰則様		
内容・結果等	ふるさと回帰センターは再訪問であったが、今回地域活性化センターの黒木氏を交え移住		
	促進に向けた空き家の活用の具体的な提案をすることで移住促進が図れないか意見を伺った。		
	チラシ等もより具体的なアピールが移住促進につながりやすいとの意見であった。		
	移住体験、農泊希望者に農地付き空き家改修、自然豊かな環境で子育てしませんか等		
	各自治体がより具体的なチラシで目を引いた。		
	定年後に田舎暮らしが多かったが、今は若者が田舎に自分の価値観を求めて移住が多くなった		
	との事。 この会員になったら来訪者へのアピール度がアップする方法もあるとアドバイス。		
	嬉野市も佐賀県はじめ他自治体と積極的に情報交流を図っていきたいと思った。		
	日本ファームステイ協会大野氏は塩田津みらい協議会の会合で知り合った方で訪問した。		
	国は中山間地区の振興にも力を入れている。その中で「農山漁村振興交付金」の紹介を受けた		
	ので検討している。		
	【まとめ】都会と地方の格差が広がっている中で、特に、中山間地区はますます少子高齢化の		
	流れで過疎化が激しいので住民が主体となって振興を図っていく事が大事であり、今後も		
	地域また、執行部へ情報提供をしていきたいと思う。		
上記活動に要した経費			
	合　　計		0

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。